

# 最近の県政を語る

## —— 県政記者座談会 ——

あった。低利とはいえず、多額の融資を要し、先行きは必ずしも約束されてはいないとあれば、壮、老年層が尻こみするのめやむを得ないことも知れない。

結局、若者たちは、昭和三十六年、新農村建設資金の融資、補助を得て、一気に開墾を終った。菅原君も待望のボンカ苗植付けを終った。七年がかりの大仕事だったわけである。菅原君は、この時、農業の近代化、共同化の必要性をいやというほど知らされたのである。昨年の豪雪で幼木が痛めつけられ、心配したが、その後順調な成育をみせている。

菅原君は、プロセクト資金で、養豚、養豚も手がけたが、これはあくまでミカン園造成までのつなぎ。さらに二移まで増植し、果樹専業でいきますという。いま、周囲に呼びかけているのは、スワス



### 十三人の青年重役

#### —— 小岱山の快挙録 ——

本渡市の青年が、自分の腕一本で営々と果樹園を拓いたのなら、こちらには、十三人の若者が、共同で大々的な集団ミカン園を造成したケースがある。荒尾市平山、小岱山の一角に出現した平山農場がそれ。

総面積十三畝、昭和三十七年二月有限会社として発足以来、ブルドーザーによる開墾をすでに終え、植付けも今春、全

・スプレーヤーによる共同防除と灌漑用水槽の共同設置だ。

開墾地のため強酸性土壌であり、こまかな管理も怠ることができない。彼は専門技術員、普及員の来訪を待って、貪慾に知識を吸収している。「学校での勉強もですが、何より実地の技術指導を受けるのが最高に役立ちます。」着実な行動派である。

三層ほどに伸びた、防風林のモリシマアカシヤの手入れをしながら菅原君は、下浦の海、上島の山なみを眺める。明日の大ミカン集団産地の夢が描かれているのだから。

「背のびをしないで、自分の能力の範囲でコツコツやったまでのごとく」何か確実にここまで歩いてきた者の自信のようなものがある。(Y)



有明海を見下すミカン園集団

うという試みがあった。同志会の実験用の圃場でみっちり研究を進める一方、適地探しも行なわれた。そして、県境荒尾の小岱山に絶好の土地をみつけた。「現在の新植ブームが続く、しかもなお、今の高いミカン景気が持続されると思いません。将来の値下がりに対処するには、省力によるコスト、ダウンしか方策がない。その意味では、ここは全く好条件ですよ。小天の山に比べて、傾斜度ははるかに少なく、平均五〜六度、おまけに土も粘土質が少なく、良い。」と、同志の一人が話してくれた。たしかに、ミカン山独特の段々畑はここではみられない。

この小天の十名のグループに、かねて小岱山の開墾を計画していた、浅田邦彦

部終了する。平均年令二十九才というこの若い集団が、二千万円の事業費を動かし、小岱山の山容を変えるような大仕事をやってのけたエネルギーは一体どこからきたのだろうか。

### 来年度はきびしい年か

司会 今日、皆さん方、日頃の取材活動を通して感じておられるいろいろな問題を、卒直に語っていただきたいと思いますが、まず、一般論から入っていきましようか。まあ、県政も一応安定したようになっていますが、経済界の動きなどからみれば、楽観を許さない。なかなかむずかしい年ではないかとみるむきもあるようですが……。その点について……。

D 知事の任期という一くぎりの中で考えてみると、今年が二年目であり、その点からいえば、極めて安定的な年だろうと思うのですよ。むずかしい年という解釈は、まあ、真面目な姿勢からの発言

であろうと思いますが、有明とか、県庁舎とか、山積した問題の解決をせまられるという点で、むずかしい年といえるかも知れませんね。

C 予算的にも苦しい中で、如何に県政を前向きに、上げ潮にのせたまま進めて行くかという事、その辺がむずかしいということじゃないかと思う。重点的な予算の配分によって県政のベースを落さないようにね。

A 今までは、財政的に苦しい苦しいといわれながらも、県税の自然増、交付税の伸びなどで、ある程度予算編成もふくらんだし、まあ楽な予算編成ができた。しかし、今年、県税、交付税の伸びが望めず、予算も重点編成となるだろう。その意味で、今年が寺木県政の真価を問われる年になりそうだな。

さんら三人が参加、十三人の仲間がガツツリとスクラムを組んだ。

小岱山の合戦 この、農業を一種の企業として成り立たせようとする試みは、西日本でも初のケースとして、各方面から非常に注目された。いふならば、小天に本社を置く企業が、小岱山に新工場を建設しようというわけ。

その後、福岡県の黒木や山川からも小岱山をめざして南下してきて、ちょっとした造園競争になった。「今のところ、うち程の規模はないですが、条件が良いし、今後もっとも増植が進むでしょう。こらあ、熊本、福岡の小岱山の合戦です。まず、負けられまっせん。」最初の計画では、農場は一カ所に集中することにしていた。省力経営の根柢だからだ。しかし、土地買収でまず障害にぶつかかり、結局二カ所になってしまった。だが、第一農場五・六畝、第二農場七・四畝。なだらかな傾斜のみことな一枚畝だ。

開墾に入って、一番悩まされたのは一面に頭を出してくる岩石だった。五〜六級の石が、ゴロゴロと、掘っても掘っても出てくる。それでも「ミカン苗は、どこに植ゆつたらだろ。まさか石の上には植えられんバイ。」と笑いとばすほど、彼等は前傾姿勢だった。

浅田さんは「開墾のピークには、一カ

題となるんだが、今年も、財政当局は補助金の整理をしたいといっているし、議会筋もそれに賛同する声強い。どの程度整理するか、その整理された分を、どの方面に有効に生かすかひとつ、知事は見識をもって納得のいく有効な整理をされるよう期待しています。

E 知事が、記者会見で「一期一会」の精神だといわれたことがある。しかし私は、行政も、我々の家庭設計と同じことだと思ふのですよ。行き当りバッタリその日の事だけ考えている家なんてないはずだし、子供の将来とか、何というか、将来の夢を持っているわけですよ。一期一会とか、将来の事は考えないというのはいかぬ夢がなくて、どうですかね。

司会 行き当りばったりと、一期一会は少し違うと思うのですが……。夢はやはりあるんじゃないですか。農業近代化、あるいは所得の増大をめざす産業の工業化とかの問題も、かなり具体的に成果を上げつつあります。

B 熊本を、停滞から成長県に転換させるテコは一体何だ、という事は、知事としても相当に考えていることは事実だと思われんです。新産都市を持って来たこともそういう点にあると思うんですが、それでも、バラ色のムードが先に来すぎていたような印象だな。

### 繁栄の谷間に灯を

私はね、今年あたりから、地域の

#### 出席者

- |           |            |            |            |             |            |            |            |             |             |                   |
|-----------|------------|------------|------------|-------------|------------|------------|------------|-------------|-------------|-------------------|
| 南良平氏 (熊日) | 熊谷啓二氏 (共同) | 山本昭二氏 (朝日) | 島田博昭氏 (毎日) | 森田修次氏 (西日本) | 村田満次氏 (読売) | 岡村昭昭氏 (熊日) | 柿山武志氏 (熊日) | 金子山哲氏 (NHK) | 山本義己氏 (NHK) | 県広報課長 大井健司氏 (RKK) |
|-----------|------------|------------|------------|-------------|------------|------------|------------|-------------|-------------|-------------------|

と き 二月一日